

山城博治さん、稲葉博さん、添田充啓さんの 無罪判決を求める要請書

私たちは、山城博治さん、稲葉博さん、添田充啓さんは憲法に保障された平和的生存権を守るため表現の自由に基づく県民的行動を担い加わった仲間です。検察側論告求刑はなりたちません。よって無罪とするよう強く求めます。

1996年のSACO合意による普天間基地の代替施設としての辺野古への新基地建設が浮上して以降、県民世論はどの調査によっても現在も変わることなく7割以上が反対の意思を示してきました。それは戦後50年（現在は72年）を経てもなお基地の重圧が県民生活を苦しめ続けており、米軍人・軍属の起こす事件や事故は後を絶たず、ときには県民の命をも奪ってきたからに他なりません。

2016年に高江のオスプレイ訓練用ヘリパッドが建設され、米軍の訓練は激化するばかりで、その結果として事故が多発しています。宜野湾市では保育園と小学校という絶対にあってはならない場所で事故が現実起きています。私たちは沖縄の過重な基地負担の現状ではいつこのような事故も起こりかねないと警鐘を鳴らし続けてきました。

国が辺野古新基地建設と高江オスプレイパッドの建設を強行する中、昨年10月16日に山城博治さんが不当逮捕され、家族すら面会が許されない5ヶ月にも及ぶ不当な長期拘留があり、今年3月17日から公判が始まりました。そして12月4日、論告求刑公判において、検察側は山城博治さんに2年6月、稲葉博さんに1年、添田充啓さんに2年を求刑しました。

沖縄県民をはじめ全国からの支援者、海外からの国際的な支援者が今も辺野古や高江のゲート前で座り続けています。それは「戦争のための軍事基地はいらない。」「いのち育む美ら海や森を守りたい。」など平和と自然を愛する情熱がそれを破壊しようとする国の横暴としか言い様がない民意を無視した強引な基地建設に対する意思表示として、表現行為として県民的・大衆的に行われています。それを陸にあっては機動隊を、海にあっては海上保安庁を総動員し、力でねじ伏せているのは国の方です。この裁判は国による人権侵害の不当な弾圧であると訴えます。問われるべきは悲惨な沖縄戦、戦後の米軍支配、復帰後も残る米軍基地の加重負担、くわえて新たな基地建設、これら国の差別的な沖縄施策ではないでしょうか。私たちのゲート前での座り込みは、過去の戦争への反省であり、現在も続く軍事強化への抗議であり、未来に生きる人類への約束なのです。私たちは平和とくらしを守るため要請します。

氏名	住所（都道府県名からご記入ください）

政治弾圧による不当逮捕者・勾留者を支援する会

〒900-0021 沖縄県那覇市泉崎2-105-18 官公労共済会館4F
沖縄平和運動センター気付け TEL.098-833-3218 FAX.098-833-3123